

漢詩神奈川

第 37 号

神奈川県漢詩連盟
事務局

横浜市鶴見区岸谷
4-28-23-301

TEL-FAX
045-573-3045

発行人 香取和之
編集人 久川憲四郎

着実に漢詩を学び、より高みを目指そう！

神奈川県漢詩連盟会長 香取和之

今年も早や半年が過ぎ、本格的な夏を迎えようとしています。皆様如何お過ごしですか。本年前半の大きな行事といえば、四月から五月の五日間に開催された漢詩入門講座と、五月の総会・講演会が挙げられます。

漢詩入門講座は神漢連創立以来、毎年開催

しており、今年は十九期として三十四名の方々が受講し、三十名が七言絶句一首の卒業詩を提出して無事終了しました。今年は受講生のレベルが高かったとの印象です。例年通り、神漢連に入会して漢詩創作を目指す方々



香取和之会長

は十九期の漢詩サークルを結成します。暖かく見守り願います。一方、漢詩鑑賞に注力された方々のために、今年から「鑑賞入門

講座」(通称、鑑賞会D)を新設し、大ベテランの中島龍一先生に、李白・杜甫をはじめとした中国・日本の代表的な詩人の漢詩を対面方式で毎月分り易く解説して頂くことにしました。尚、神漢連入会数年以内の方々も聴講可能です。

総会は今年から交通の便のいい横浜市開港記念会館に会場を移して五月二十九日に行われました。総会後の漢詩講演会は鷺野正明先生が「漢詩の美しい言葉」と題して、花のある風景や身の回りの風景について唐代から清代迄の代表的詩人の詩を紹介され、凡そ百八十名の多くの聴衆が熱心に聞き入っていました。また、併設した「自詠自書の会拡大作品展」も好評でした。そして、その夜の懇親会は四十二名が参加し、会員同士の親睦の場として和氣藹藹のもと進められました。

今年、「神奈川県漢詩連盟規約」の大幅な見直しを行いました。

- ① 若手会員勧誘の一環として、「U23会員」(公費無料)を新設する。
- ② 八十五歳以上の会員が継続し易くする為に、会費五年分支払いで終身会員とする。
- ③ 会計関係の規定追記等。

神漢連にとって、着実に漢詩を学ぶ方策を明確化して、会員のレベルアップを図ることは常に重要な課題ですが、初級者(入会後数年を想定)、中級者(全国大会入選レベル)、上級者(全国大会特別賞受賞レベル)に区分して進めます。

初級者に対しては、従来の方策に加え、上記の「鑑賞入門講座」を新設し、さらに「漢文・漢詩の句形」「搜韻の使い方」「七絶推敲表の使い方」等の短期講座を定例化します。

中級者に対しては、日本の四季の自然と行事に根差した日常生活や、いわゆる老病死にまつわる出来事を詠じ易くするための一方策として、「近現代日本漢詩 詩語用例検索」のシステム構築と試行を神辞会中心に進めます。また、中上級者に対しては、神漢連内での切磋琢磨と共に、斯文会や二松詩文会などに入会して、全国的に著名な先生方の作詩指導を受けるように改めて勧めます。

尚、漢詩サークル講師の連絡会を今後開催して、上記を含む方策についてさらに詰めていく予定です。

今年も漢詩の鑑賞や創作を通して自己研鑽を積み、また漢詩の仲間との交流を通して豊かな人生を送りたいものです。

連盟の行事

令和七年度第二十回定期総会が開催

事務局長 久川憲四郎

令和七年度第二十回定期総会は五月二十九日、従来とは会場を変えて、横浜市開港記念会館講堂において開催された。来賓に鷺野正明全日本漢詩連盟会長、池上一利東京都漢詩連盟会長を迎え、会員約六十名が出席した。

水城まゆみ副会長が開会を宣し、香取和之会長が挨拶の後、議長となり議事を進行した。まず、令和六年度の活動報告・予算案が担当者より行われた後、人事案(本頁下段参照)が提案され、それぞれ承認された。最後に新井治仁副会長が閉会の言葉で、盛会裏に終了した。

総会後の漢詩講演会では、来賓の鷺野正明先生が「漢詩の美しい言葉」と題する講演を行った。今年度より会場が交通至便となったこともあって、会員以外の参加者も含め、聴講者は百八十名に達した。聴衆は、講演の「花のある風景」や「身の回りの風景」の中にある美しい言葉について聴き入っていた。講演内容は、要旨を本会報の四面・五面で紹介しているほか、YouTubeで公表している。

懇親会は、ホテルJALCITY 関内 横浜において鷺野会長、池上会長、横山真吾理事を交えて、四十二名が参加して開催された。

(鷺野会長の玉韻を十五面に掲載)

また、前日と総会当日は、総会会場の隣室において「自詠自書の会 拡大作品展」が開催され、たくさんの来場者でにぎわった。

令和六年度決算・七年度予算

令和6年度一般会計決算			令和7年度一般会計予算			令和6年度田原基金決算			令和7年度田原基金予算					
区分	費目	金額	区分	費目	金額	区分	費目	金額	区分	費目	金額			
収入	前年度繰越	516,387	収入	前年度繰越	643,328	収入	前年度繰越	938,387	収入	前年度繰越	946,257			
	年会費等	888,500			年会費等		936,000			叢書頒布	7,870		叢書頒布	15,000
	行事参加費	204,000			行事参加費		167,500			その他収入	0		その他収入	1,000
	その他	100,900			その他		11,000			収入計	946,257		収入計	962,257
	収入計	1,709,787			収入計	1,757,828	支出	叢書刊行	0	支出	叢書刊行	10,000		
支出	庶務費	395,774	支出	庶務費	565,000		その他雑費	0	支出	その他雑費	5,000			
	広報事業費	205,967			支出計	0	区分	支出計		15,000				
	教育事業費	267,518			教育事業費	310,000	残	次年度繰越	946,257	残	次年度繰越	947,257		
	全漢連費	196,120			全漢連費	225,000	令和6年度末神奈川県漢詩連盟資金残高							
	その他	1,080			その他	137,828	一般会計		643,328 円					
	支出計	1,066,459			支出計	1,457,828	田原基金		946,257 円					
残	次年度繰越	643,328	残	次年度繰越	300,000	合計		1,589,585 円						

令和七年度人事

☆理事

古田光子 横山真吾 室橋幸子 中島龍一
飯島敏雄 高津有二 瀧川智志(新)

☆執行理事

香取和之(会長) 水城まゆみ(副会長)

新井治仁(副会長) 久川憲四郎(事務局長)

東島正樹(事務局次長) 山口幸雄 薦 清昭

白石信隆 五嶋美代子 高橋純子 牛山知彦

高田宗治 木村 孝(新) 吉池 純(新)

伊藤邦彦(新)

☆監事

松井秀人 中村講二(新)

☆特別相談役

岡崎満義 三村公二

☆相談役

住田笛雄

☆顧問

窪寺 啓 池上一利

☆役員退任

理事退任 岡田泰男
執行理事退任 瀧川智志 柴本信子
監事退任 鈴木正敏
顧問退任 浅岡清明

☆運営委員

家吉幸二 田川行雄 橋本孝一
内山早奈江 田内 隆 大森冽子
松田奈月 佐野輝美(新)

☆運営委員退任

宮代まゆみ(新)

(参考)

岩波弘道 中村講二 吉池 純
木村 孝 伊藤邦彦 久保裕章

☆特別会員

市川桃子 高芝麻子 後藤淳一

☆竹林舎

菅原 武 鄧 捷

玉井幸久 飯沼一之 古田光子

住田笛雄 三村公二 水城まゆみ
中島龍一 高津有二

令和六年度 研修会

令和六年度の研修会は、全部で二十五名の方から投稿があり、十二月十八日(水)に「かながわ労働プラザ」で開催されました。

顔触れは今年も超ベテランの方の参加の方で、若い方の参加が目立ちました。十八期生四名を含め、十五期生以降だけで八名、十期以降では十六名でした。

匿名の二十五首の投稿詩の中から、推薦詩を投票し合い優劣を競うと同時に、その結果を伏せたまま、意見交換し合うという従来の方式を今回も踏襲しました。やや多めの人数で十分な討議が維持できるか危惧されましたが、それぞれの詩について熱心な意見交換がなされた上で時間もなんとか収まりました。

その結果、左記の方々の詩が表彰され、香取会長から賞品が授与されました。

優秀賞

水村新秋

水村新秋

志詩会 木村 孝

碧落盡瀛瀾似羅

碧落瀛に尽きて 涛は羅の似く

緑巖映水影如螺

緑巖 水に映じて 影は螺の如し

西風瑟瑟消長夏

西風 瑟瑟として 長夏を消し

笛韻琅琅和棹歌

笛韻 琅々として 棹歌に和す

優良賞

茅亭春意

茅亭春意

五友詩林会 大野若人

残雪初融隱士家

残雪 初て融ける 隠士の家

和風颯颯透窓紗

和風 颯々 窓紗に透る

羅浮夢斷幽香裡

羅浮の 夢断ゆ 幽香の裡

忽見一枝三兩花

忽ち見る 一枝 三両の花

佳作

清秋朗月

清秋朗月

金星十支会 高橋光代

涼風颯颯海村宵

涼風 颯々 海村の宵

玉兔煌煌照水遙

玉兔 煌々 水を照して 遙かなり

沙岸湛然千里闊

沙岸 湛然 千里闊

金波激瀾釣舟漂

金波 激瀾 釣り舟漂う

佳作

新年慶賀

新年を慶賀す

既望云 成澤きよ子

三元景物座春風

三元の 景物 春風に座す

鳥語啾啾天地中

鳥語 啾々 天地の中

孝子欄孫皆尚健

孝子 欄孫 皆尚健に

東君一笑瑞雲空

東君 一笑 瑞雲の空

佳作

村里秋景

村里の秋景

十期会 細江利昭

茅舍東籬小菊黃

茅舎の 東籬 小菊黄なり

西風颯颯橘橙香

西風 颯々 橘橙香し

數行征雁沒天際

數行の 征雁 天際に没し

孤寺鐘聲帶夕陽

孤寺の 鐘声 夕陽を帶ぶ

漢詩研修会の楽しみ方

志詩会 木村 孝

この研修会では自分の作品がどう評価されるかのほかに、どの作品が多く参加者に選ばれるかという楽しみがあります。参加者の作品を読みこんでどこまで理解できたかが試されるのです。今回は自分の選んだ詩がいずれもベスト3に入りました。少しは詩の良し悪しが分かってきたかと満足しています。

自作の詩は、葉山一色海岸から見た秋の海のようにです。対句を意識して作詩しましたが、内容が単調で少々インパクトに欠けるものになってしまいました。多くの方に選んでいただき感謝しています。



作者匿名で意見交換

『漢詩の美しい言葉』

― 鷺野正明先生講演会 ―

令和七年五月二十九日 木曜日、横浜市開港記念会館講堂に於いて、神奈川県漢詩連盟令和七年度総会に続き、全日本漢詩連盟会長鷺野正明先生による『漢詩の美しい言葉』の講演会が開催されました。講堂は会員以外の方一般の方も合わせて百八十名が集まりました。だき、盛会となりました。



1. 花のある風景 ― 杏の花 ―

遊趙村杏花

趙村の杏花に遊ぶ 唐 白樂天

趙村紅杏毎年開 趙村の紅杏 毎年開く
十五年來看幾迴 十五年來看ること幾迴ぞ
七十三人難再到 七十三の人は再び到り難し
今春來是別花來 今春來たるは是れ花に別れんとて來たる

最後の句が心に染みてきます。趙村では毎年赤い杏の花が咲きます。白樂天は十五年来何回この花を見たでしょう。七十三歳の人は再びこの杏の花を見にやってくるのができるだろうか。この春、見に来たのは花に別れようと思ってきたと言う訳ですね。何気ないけれどとてもいいでしょう。美しい言葉です。花に別れに来たる、なかなか詠えないと思います。白樂天は七十五歳まで生きます。

清明

清明

唐 杜牧

清明時節雨紛紛

清明の時節 雨紛紛

路上行人欲斷魂 路上の行人 魂を断たんと欲す
借問酒家何處有 借問す 酒家 何れの処にか有る
牧童遙指杏花村 牧童遙かに指さす杏花の村

氣候が穏やかで明るく清らかな季節、清明節なのに小糠雨が降っている。路上の行人、杜牧の魂は落ち込んでいます。そこでちよつと一杯飲もうかなと思うのですね。酒屋はどこにあるかと小さい子供に尋ねます。この「有」という字、あることは分かっている、「在」という字であればあるかどうか分からないという事です。杜牧は酒飲みですから、水村山郭酒旗風。お酒の旗にすぐ目がいく。中国では散歩して喉が渴いた時にも酒を飲む事があります。子供が指さす先に杏の咲いている村があり、雨で霞んだその中に赤い花が咲いている、それを見てほっとするわけです。そこで酒が飲める。心が救われる感じがします。

雨中閒臥

雨中閒臥

明 高啓

牀隱屏風竹几斜 牀は屏風に隠れ 竹几は斜めに
臥看新燕到貧家 臥して新燕の貧家に到るを見る
閒居心上渾無事 閒居心上渾て事無く
對雨唯憂損杏花 雨に對して唯だ憂う 杏花を損なうを

牀は屏風の後ろ側、竹几は斜めに置いて、寝転がっている。いかにも自由に生活しています。新燕の「新」は渡つて来たばかりという感じです。暇人の暮らしに心の中に思う事もない。ただ、雨が降るのを見て杏の花が損なわれてしまふのを心配している。この詩は志賀直哉の小説「矢島柳堂」の冒頭に引用されています。画家にこの光景を描いてくれと頼みます。絵にしたくなる風景、漢詩で大事なのは風景が見えるからです。具体的に描く、作者の心がそこに籠ります。

2. 身の回りの風景

書適

適を書す

南宋 陸游

老翁垂七十 老翁七十に垂として
其實似童兒 其の实 童兒に似たり
山果啼呼覓 山果 啼呼して 覓め
鄉讎喜笑隨 郷讎 喜笑して 隨う
群嬉累瓦塔 群れ嬉しみて瓦塔を累ね
獨立照盆池 獨り立ちて盆池に照らす
更挾殘書讀 更に殘書を挾んで読み
渾如上學時 渾て学に上る時の如し

心に思う何でもない事を書いた、これ分かるなという詩です。七十歳になろうとしているけれど、全く子供と同じだという気持ちも分かります。盆池に照らすは甕の水面に映すという事です。ボロボロになった書を小脇に抱えて読む、まるで学校に上がった時のようです。前半の部分を受けています。こういう事も詩にできます。ただ、こういう詩を作る時には古典の素養がないとできません。古典をたくさん読むことが大事です。

書懷

懷いを書す

清 袁枚

我不樂此生 我此の生を樂しまざるも
忽然生在世 忽然として生まれて世に在り
我亦樂此生 我亦た此の生を樂しむも
忽然死又至 忽然として死又至る
已死與未生 已に死すと未だ生れざるも
此味原無二 此の味い原より二無し
終嫌天地間 終に嫌う天地の間
多此一番事 此の一番の事多きを

哲学的ですよ。性靈派(インスピレーションを感じたらインスピレーションそのままに詠います)ですから自由です。生まれる前、人間として生まれるとは知らないし楽しいものだとも思っていなかった。

気づいてみたら生まれていた。人生楽しいけれどいずれ死が突然やってくる。生まれる前も死んでも無だと。なんか分かるでしょう。



熱心に聴く会場の皆さん

意有所得雜書數絶句 九首其九

意に得る所有り數絶句を雜書す

清 袁枚

莫説光陰去不還 説う莫れ光陰去つて還らずと
少年情景在詩篇 少年の情景詩篇に在り
燈痕酒影春宵夢 灯痕 酒影 春宵の夢
一度謳吟一宛然 一度謳吟して一たび宛然

詩を作る人はとてもよく分かると思います。光陰とは時間です。光陰去つて還らない、これは中国の伝統的な考え方です。しかし、少年の時は二度と帰って来ないという必要はない、(中国では大体三十歳くらいまでを少年と言います)青春時代は全部詩の中に残っている。灯のもとでの思い出、酒を飲んだ楽しみ、あるいは春の夜の夢、それらはひとた

び詩を読んでみるともう一度心の中に蘇ってくる。しみじみと分かりますね。清朝になるとこういう自由な歌い方が出てきます。格調は高くはないですけど心にぴたりと来ます。今の私たちに通じる歌い方をしています。

【終わりに】

鷺野先生は優しい声で囁くようにお話しされます。今回は中国語でも漢詩を詠んで下さり、大変味わい深いものとなりました。

先生の最新著作「一冊で読む漢詩400」が笠間書院から4月に出版されました。先秦から近代まで時代順に著名な漢詩が網羅されています。講演で眼前に見た美しい言葉の世界を再度訪ねてみてはいかがでしょうか。

You Tubeにてご講演の動画を配信しています。神奈川県漢詩連盟のホームページをご覧ください。

記 伊藤邦彦

オンライン吟行会

「雪国」(二月二十四日開催)

自宅に居ながら雪国へ小旅行

令和三年の神漢連創立十五周年記念行事の一つとして誕生したオンライン吟行会も、今回、第十三回を迎えました。

今回は「雪国」という、やや日本的かつ広範囲なテーマでの吟行会となりました。折しも、日本海側を中心とした記録的な積雪のニュースが報じられる中での開催でしたが、参加者の中には「自分は雪国の出身だ、雪の大変さはよく知っている」というようなコメントをされる方がいる一方、「自分は雪とまったく無関係なところで生まれ育った」とおっしゃる方もいて、ズームの画面からは「ふーむ」「クスクス」という声が聞こえてきました。オンライン会議では、みんなが一人の発言に正面から向き合える感覚があります。

参加者の全員が、初めはズームの使い方を知りませんでした。初めてで不安を感じる方にはサポートがありますので、安心して参加することができます。ズームの使い方に慣れてしまえば、神漢連の鑑賞会など、ほかのオンライン会議に参加することも出来るようになります。

次回は八月に開催の予定です。気軽に楽しいオンライン吟行会に、会員歴の長い方も短い方も是非ご参加ください。

(五嶋美代子)

◎優句 ○秀句 ●人気句 ●秀句かつ人気句



オンライン吟行会は、コロナで吟行会が出来なくなつたことに伴い考え出されたものですが、スタッフの方のご努力により非常に効率的に進められるようになってきています。

尾瀬・長安・雪国など、実際には行くことが出来ないところを映像で見て、それを元に指定された韻字で一句を作つて提出します。その後は普通の吟行会と同じように先生に連句にしていただし、その後で先生が選ばれた優秀句、参加者による人気投票で選ばれた句が公表されます。

実際の吟行会と同じようにサークル以外の人とも交流を深める機会であり、それに加え、提出句について先生から講評も頂けるといふ、実際の吟行会にないメリットもあります。

私も毎回参加して来ましたが、家にいながら手軽に楽しむことが出来ます。秀作に選ばれるかどうかは、「韻字」による籤運がありますので、余り気にしていません。又、「搜韻」を利用して、難しい韻字でも一句作ることが容易になってきています。

最近、メンバーが固定されている傾向がありますが、何事においても、一度は参加してみても、自分に合わなければ止めればよいわけです。未参加の方も一度は参加されてみるのが良いと思います。これが、自分の世界を広める方法だと思っています。

十期会 細江利昭

十九期漢詩入門講座開催

―多くの仲間が神漢連に入会―

例年通り、四月五月の五回で神奈川を中心に、東京、千葉、埼玉から三十五名程の参加者がほぼ皆勤され、卒業詩三十首の投稿が寄せられました。本年の特徴は連盟側の講師が例年にも増して寺子屋での指導に集中できたこと、対応する受講生の作詩に対する熱意が相乗効果で質の高い意見交換の場となりました。特に前年度有志が、各回きめ細かい準備と受け入れでサポートいただいたことは受講環境にとっても効果的だったと言えます。また、詩吟や書道関係者や若年層まで男女ほぼ同数の構成となったことは広域で再び漢詩愛好の底流が兆してきた証左と思われます。既に、サークル役員も決まり、秋口までに例会開催の予定で、鑑賞会Dへの参加で活動の場も更に拡がっていくことが期待されます。なお、十九期代表世話人は後藤俊男氏、講師は高橋純子氏、久川憲四郎氏です。(新井治仁)

最優秀賞

金澤武司郎

暮春尋横濱外国人墓地 暮春横濱外国人墓地を尋ね
携筇墓上日西傾 筇を墓上に携えば日西に傾く
坐見余花洗俗情 坐に見る余花 俗情を洗う
苔護墳塋人影悄 苔護す墳塋 人影悄たり
丘隅惟聽白鷗聲 丘隅惟聽く 白鷗の声

春山訪友

春山訪友

田辺武夫

杪春獨往雨餘山 杪春 独往 雨餘の山
舊識竹庵輕霽間 旧識竹庵 輕霽の間
滿地龍孫迎我處 地に滿つる龍孫 我を迎える処
俱炮嫩筍盡觴還 俱に嫩筍を炮り 觴を尽くして還る

優秀賞

花時出遊

花時出遊

北野ますみ

十里長堤花発時 十里の長堤 花 発くの時
水邊人去故遲遲 水辺より人は去るも 故に遅々たり
疎鐘隱隱天將暮 疎鐘は隱隱として天將に暮れなんとす
風送芬芳扞面吹 風は芬芳を送り 面を扞うて吹く

西山友貴

獨坐雅庭對春 独り雅庭に坐して春に對す
麗日江南帶淡霞 麗日の江南 淡霞を帶び
遊人散策賞春華 遊人 散策して春華を賞でる
回廊一片清香遍 回廊の一片 清香遍き
靜坐簾陰獨看花 靜かに簾陰に坐して 独り花を見る

花時出遊

花時出遊

山下俊勝

東風三月一山桜 東風三月一山の桜
幽鳥声声万感生 幽鳥の声声 万感生ず
春色匆匆留不得 春色は匆匆として留め得ず
閑吟自適樂餘生 閑吟自適 余生を樂しむ

花時出遊

花時出遊

後藤俊男

黄昏柳暗水空流 黄昏 柳は暗く 水 空しく流る
風送飛花去不留 風は飛花送り 去つて留まらず
野寺模糊禽語靜 野寺 模糊として 禽語 靜かなり
暮鐘清響繪春愁 暮鐘 清響 春愁を繪く

饒春

饒春

西島美絵子

紅杏離枝春水流 紅杏 枝を離れ 春水流る
渡頭柳浪晚風柔 渡頭の柳浪 晚風柔らかなり
酣歌行樂浮生事 酣歌 行樂 浮生の事
野蝶匆匆去不留 野蝶 匆匆 去りて留まらず

漢詩入門講座に参加して

西山友貴

昨年大学の漢詩研究会に入会し、一年間漢詩を学びました。自作の漢詩で書道作品を制作してみたからです。

今回、漢詩をもっと深く学びたいと思い、漢詩入門講座に申し込みました。講座に参加してみて、今まで知らなかった多くの知識を得ることができました。また、直接講師の方から漢詩作りの指導を受けられたことは大きな成果でした。また、卒業詩が入選したことも私の励みとなりました。

漢詩連盟の会員になるにあたり、私はU23の最初の入会者になったとお聞きしました。若い世代の人々にも漢詩の面白さを広げていきたいらと願っています。

今後は更に漢詩作り、漢詩鑑賞の力をつけていくつもりです。そして、自分の生活の中に漢詩を取り入れることで、身近な小さい変化にも気づき、それを楽しめるようになると思います。

(入門講座の写真は十五面に掲載しました)

神奈川県漢詩連盟 2024(令和6)年度 サークル活動状況 (2024.4~2025.3)

2025/4/1 現在

区分、開始年	サークル名	会員数	代表者	指導者	開催日	主な会場	特記事項
2007年(H19)・1期 2018年(H30)・12期	金星干支会	7	五嶋美代子	三村公二 新井治仁	奇数月 第2火	かながわ県民センター	一期金星会と十二期干支会が合併して3年経過し、会合も定着。次回の詠題と自由題を直に交換している。
2008年(H20)・2期 2013年(H25)・7期 2014年(H26)・8期	三七八会	13	橋本孝一	中島龍一	奇数月 第3水	男女共同参画センター 横浜南太田	令和五年十一月に三水七歩会と八起会が合併。詩稿提出は兼題・自由題で2つまで。詩稿提出にかかわらず出席可。漢詩に関連のある事柄について、会員の発表する時間を設けている。
2009年(H21)・3期	好文会	7	高津有二	玉井幸久	偶数月 第3木	ZOOM、対面	例会は対面1回、ZOOM5回。事前にDeep Seek(生成AI)に評価、解釈、添削を聞いて、その後講師の批正を受ける。今後、この開催方法、批正方式を継続する。
2010年(H22)・4期	詩游会	3	新井治仁	なし	偶数月 第3火	神奈川県立公文書館	今年度は、6期以文会と合同例会を継続開催。講師は不在で活動。令和7年4月からは、以文会と合併し1サークルとなる。(下記「注」参照)
2011年(H23)・5期 2017年(H29)・11期	五友詩林会	9	白石信隆	住田笛雄	偶数月 第2木	ZOOM	例会は8月を除く5回、ZOOMで開催。課題詩、自由詩2首の批正を受けた(2月は講師欠席で、互評)。令和7年度もZOOMを継続する。
2012年(H24)・6期	以文会	8	大森冽子	なし	偶数月 第3火	県立公文書館	4期詩游会と合同例会を継続開催。講師は不在で活動。令和7年4月からは、詩游会と合併し1サークルとなる。(下記「注」参照)
2012年(H24)・ 岳精会	岳精会漢詩 研究会	8	家吉幸二	三村公二	偶数月 第2水	岳精流日本吟院総本部 (川崎市川崎区)	例会は対面で開催。前回例会で兼題を受けて、当日発表、ディスカッション、講師の批正を受ける。例会の始めに「岳精会会詩」を合吟、終わりに佳作詩は自詠自吟。
2015年(H27)・9期	九詩期会	13	山口幸雄	水城まゆみ 高橋純子	奇数月 第2木	八洲学園大学 (高島町)	メールで詩稿を提出。令和7年に結成10周年を迎えるので、記念詩集を作りたい。だんだんと漢詩大会での入賞者が出てようになってきた。
2016年(H28)・ 千代田岳精会	千代田岳精会 漢詩研究部	9	田川行雄	香取和之	偶数月 第2水	MMフォレシス内サロン (みなとみらい)	例会は対面で開催。毎回6名程度参加。欠席者には資料を送付。例会終了後に懇親会を開催し、親睦を深めている。
2016年(H28)・10期	十期会	8	高田宗治	高津有二	奇数月 第3木	横浜市戸塚公会堂	対面方式で6回開催。毎回メンバー8名中7名が参加。例会では、提出詩と批正詩を併せて互評し合っている。
2019年(R1)・13期	令和会	9	中村講二	松井秀人	奇数月 第1火	横浜市西区福祉活動拠点「フクシア」	例会は対面4回、ZOOM2回。1月より会員相互「1対1で批正」した後、講師の指導を受ける。4月に神辞会講師によりZOOMで、「搜韻の最初の一步」を受講。
2020年(R2)・14期	志詩会	7	東島正樹	香取和之 牛山知彦	偶数月 第3月	横浜市開港記念会館	例会6回対面開催、例会は約3時間、講師の批正を受け、相互感想を述べ合う。毎回1首の名作漢詩を鑑賞している。
2021年(R3)・15期	逸語会	9	田内 隆	水城まゆみ 高田宗治	奇数月 第1火	かながわ県民センター	例会は、6回すべて対面で開催。3時間。季節に応じた課題詩1首を提出、希望者は他に自由題首の提出も可。
2022年(R4)・16期	既望会	7	内山早奈江	高津有二 白石信隆	偶数月 第2火	かながわ県民センター	例会はすべて対面で開催。
2023年(R5)・17期	いななき会	6	吉池 純	新井治仁 東島正樹	奇数月 第3木	かながわ県民センター	例会の他、会員のみの勉強会を偶数月に開催、互評し、例会に繋ぐ。自由題、題詠ともに取り組み、コンテストの応募も積極的に行う。令和7年度から、代表が伊藤邦彦氏に交替。
2024年(R6)・18期	壺八会	11	佐野輝美	松井秀人 木村 孝	偶数月 第2火	かながわ労働プラザ	令和6年9月発足。以降10月、12月、2月すべて対面で開催。
計	16サークル	134			奇数月7, 偶数月9		

注:2025年(令和7年)4月、4期詩游会と6期以文会は、合併して「詩游以文会」となった。

サークル紹介

令和会のこれまでの経緯と現況

令和会 代表 中村講二

二〇一九年(令和元年)の第十三回漢詩入門講座は二十五名が参加し、四月十六日から六月五日の間、神奈川近代文学館で五回開催された。令和会代表世話人は竹村文孝氏、入会者十五名(男性十一名、女性四名)、奇数月第一火曜日に勉強会を開催し、水城まゆみ先生と松井秀人先生にご指導いただく事になった。

令和元年九月より開始し近代文学館及び県民ホールを利用したが、令和二年三月にコロナ緊急事態宣言が発令され、令和三年七月までの計九回はコロナ感染防止も含め勉強会は休講し、自宅学習で作成の詩題を講師に送付して批評後返送いただく方法を取った。この間、令和二年九月には水城先生が令和会講師を退任、松井先生のための体制となり、女性四名と男性一名が退会、男性一名が死去し、男性九名の会となった。開催場所も横浜駅近くの西区社会福祉保健活動拠点「フクシア」となり現在に至る。

令和六年三月、運営委員も努めた竹村代表世話人が体力減退と埼玉県大宮からの委員会出席が厳しくなってきたため退任、横浜在住



いななき会の皆さんと講師

令和五年の入門講座で出会った十七期生の会です。「いななき会」は「嘶き会」と漢字で書きます。幾つかの名前候補の中から全員一致で決めました。一七期の語呂を合わせた勢いのあるネーミ

いななき会 代表 伊藤邦彦

「李白的酒杜甫の愁」

また会員の多くが病を抱え(例会後の懇親会も不定期)、埼玉、群馬県から横浜まで二時間以上かかる方もおり、令和七年一月より年六回開催を「対面とZOOMで交互に各三回」とし、会員各位の体への負担を軽減している。



令和会の皆さんと講師 (Zoomで)

の中村講二が就任した。隔月の例会では、提出した詩稿に対する出席者による「一対一の批評」と「松井先生のご指導」により、叱咤激励を受けながらも、各位はめげずに漢詩創作に取り組んでいる。

ングだと思いませんか。結成から早二年。奇数月に新井先生、東島先生にご指導いただき、偶数月には会員だけで勉強会を開いています。この場を借りて先生お二人に感謝を申し上げます。つまりいななき会は毎月集まって、喧々諤々漢詩で盛り上がっているのです。その甲斐あつてか、昨年の全国大会神奈川大会では会員から入選者が出るという、素晴らしい知らせを受けることができました。私も続けと熱が入るところですが、まだまだこれからの個性豊かな面々は己の表現をいかに漢詩の世界で実現するか、今は地道に力を蓄えています。

会は現在も結成当初の六名で活動しています。一人かけても困る小さな所帯ですが、結束力は強く、昨年の全国大会では全員が大会の成功に向けて活躍しました。自画自賛です。自主勉強会についてもお話ししておきましょう。先生方に批評していただく前に会員で互評を戦わせようというのが主旨です。面白いですよ。もちろん人格は十分尊重しています。日々成長を遂げるいななき会は烏蘭巴託(ウランバートル)の草原を行く汗血馬のように一日一千里を駆け抜けん、「漢詩を学ぶ、漢詩で遊ぶ」漢詩再興を目指すぞ!の心意気と言う訳で、夕闇迫る横浜駅前の酒旗を求めて、さらに漢詩談義は続くのであります。

現代中国の漢詩事情(連載)

李白の故郷として町おこしをする

四川省・青蓮

逸語会 松田奈月

四川省の成都にある杜甫を記念した「草堂博物館」は有名で、毎年四百万人ほどが訪れる人気スポットだが、成都から百六十キロほどのところにある「青蓮」で「李白の故郷」として町おこしが行われていることはあまり知られていないのではないだろうか。



青蓮を歩くと
あちこちで李白像に出会う

盛り上がりのきつかけは二〇一四年に成都から西安へつながる高速鉄道路線で、青蓮に新しく駅が開設したことだ。成都から約一時間、駅前に降り立つと「詩仙故里」の石碑が迎え、その奥の小高い丘の上に李白が幼少期に暮らしたという「李白故居」が見える。まさに李白の故郷を盛り上げるために、駅ができたような配置だ。故居を取り囲むように古い町並みが再現され、大きな舞台のある広場がで

き、中華式のリゾートホテルや「李白文化博物館」(二〇一八年十月)なども次々とオープンし、李白推しで新たな町づくりが行われている。もともと青蓮から14キロ先に別の「江抽」駅があり、そちらの駅前には「李白記念館」(一九八二年開業)があるのだが、いまや李白の故郷自慢をふたつの駅で競っているようにも見える。まあ結果として、この一帯が李白の故郷として盛り上がっているの、相乗効果もありそうだ。



故居にある「月下独酌」像
後方に青蓮駅が見える

李白の生まれた場所は諸説あるが、少なくとも五歳から放浪に出る二十五歳まで、この青蓮で育ったと言われている。故居には、「太白祠」や、李白が幼少に暮らしていた「隴西院」などが再現されていて、見学できる。年間、この李白故居を訪れる人数は、まだ草堂の十分の一ほどのようだが、それでも親子連れをよく見かけ、中国の漢詩への教育熱の高さをうかがわせる。園内には李白が生涯に

作った詩の石碑があちこちあるのだが、現地ガイドの質問に小学校低学年くらいの子どもたちが、すらすらと詩を暗唱しているのにはおそれいる。

そうそう、青蓮の名物は「肥腸」と呼ばれるもつ煮である。李白の好物だったとか。肥腸好きの李白のために、母親が遠くから運んだという「読書台高千尺 不及老姬送肥腸」の詩が民間に伝わっているが、どうもこの詩自体は近年の創作のよう。さて、実際の肥腸の味だが、大豆の煮豆入りで、四川的なしびれ辛さはなく、懐かしさを感じるまろやかな味。下町エリアには肥腸の店が何軒も連なり、道端に置かれた席でつまみながら、ここは白酒で「一杯一杯復た一杯」といきたいところ。町を歩いて



「肥腸」は1皿18元
(360円ほど)だった

みると、李白家の茶葉煮卵とかアイスなどの看板も見かけ、さすがの商魂である。これも地元の人たちの李白愛か? 成都方面に行かれるときは、ぜひ李白推しの青蓮を訪ねてほしい。

現在、ディレクターを務める『地球鉄道』という旅番組がNHK BSチャンネルで放送中です。鉄道旅行を通して今の中国が見えてくるので、もしよかったらご覧ください。

高校での漢詩教育の現状

―現役の先生が寄稿―

私の漢詩創作指導

狭山ヶ丘高等学校 樋口敦士

平成二十年(二〇〇八)八月、湯島聖堂でおこなわれた全国漢文教育学会夏期研修会に参加して、会長石川忠久先生の漢詩講座を受講した際に漢詩が創作対象となっていることに改めて気づかされました。

平成二十五年(二〇二三)四月、勤務校において漢詩俳句同好会を発足し、有志の生徒を対象に漢詩創作指導を始めました。漢詩創作は必ずしも全ての生徒に受け入れられるものではありませんが、いくつかの大会で多くの受賞者を輩出すると新聞や書籍にも取りあげてもらうことで注目を受けました。昨年十月には全日本漢詩大会神奈川大会において本校三年生の生徒(当時)がU18奨励賞最優秀賞をいただき、大変喜んでおります。

折しも平成三十年(二〇一八)三月告示「高等学校学習指導要領」の指導内容には漢詩創作が明記されて、国語教育でも実践報告が増えました。ただし、指導要領解説には「平仄」の言及がないばかりか「押韻」も正確でなくともよいことも付記されていますので、現在の高等学校の授業では「漢詩もどき」の創作作業になっている実態も見受けられます。

私は現在、漢詩における実作・指導・研究



狭山ヶ丘高校 漢詩俳句同好会の皆さん

を兼ねる者としてこの課題に向き合っています。漢詩鑑賞の際に「平仄」や「韻目」の知識は有効であること、わが国においても多くの漢詩が創作された伝統があることを生徒には伝えてきました。特に江戸時代には『扶桑名勝詩集』など日本の名所を詠み込まれた書物まで刊行されています。こうした各地を詠み込む「漢詩旅」を現在まで続けています。最後に本年三月に訪れた和歌山県の歌枕「和歌浦」の拙詩を紹介いたします。かの聖武天皇や山部赤人などに讃えられた絶景の風情を少しでも感じていただければ幸いです。

和歌浦

通文享(樋口)

高潮六玉島浮盈 高潮には六玉の島浮き盈ち
低湿泥砂一鶴鳴 低湿たる泥砂に一鶴鳴く
聖帝親臨南紀地 聖帝南紀の地に親臨せしより
千年騷客競才名 千年の騷客才名を競ふ

自詠自書の会拡大作品展

(五月二十八日・二十九日)

世話人 木村 孝

今年度は、篆刻を含む書作品のほかフォート漢詩や版画等を加えた拡大作品展として、総会・漢詩講演会の行われた横浜市開港記念会館講堂横の会議室で開催しました。出品者二十四名・作品三十四点といずれも昨年から大幅に増えて、故石川忠久先生遺墨をはじめとして、全日本漢詩連盟の鷺野会長にもフォート漢詩を特別賛助出品して頂きました。会期は過去最短の二日間でしたが、講演会聴講や重要文化財の建物見学等の流れもあり、参加者は二百四十名にも及び大盛況となりました。(一日当り来場人数は従前比倍増)

会場に置いた自由記帳ノートには、中国人旅行者が「中国の詩文や漢詩が日本で伝承されているのを目にし、漢文化の深遠さを改めて感じました」とのコメントを残してくれました。会場は展覧会利用を想定していない会議室で、諸準備・陳列撤去等到大変苦労しましたが、出品者各位のご協力で無事開催完了することができました。深く感謝する次第です。

来年の作品展に向けて、「超簡単・自詠自書入門講座」を八月十一日、十七日に開催する予定です。詳細はHP参照。

○申込み・問合せ先(代表・牛山知彦)

✉ koryukitsuan@gmail.com 又は ☎ 080-

5521-6735

会員のたより

遊びをせんとや 生まれけむ

三七八会 松原裕子(芦遊)

毎朝、新聞を読みながらお菓子とコーヒーで朝食、家の中と庭と体の掃除、次にラジオ体操代わりの肩甲骨や首の体操、発声練習の後、漢詩など三〇四吟。これが朝のルーティンです。詩吟を始めるまでは美しいもの、素敵なものに惹かれるタチでした。でも詩吟を知ってから、人間、人の情、歴史など、それまで興味のなかった世界も広がりました。

そうした頃、漢詩の会の存在を知り、「自分で作った漢詩を吟じてみたい」という気持ちで、神漢連に入れていただきました。思うように漢詩を作れませんが、最近は唐や宋の漢詩を味わうのも大切な事、と思っていいます。また、漢詩を美しい中国語で朗読したいと思ひ、世界が広く深くなつてゆきます。

さて、私は詩吟の号に 遊 をいただいています。それは詩吟で遊ぶ・漢詩で遊ぶの遊です。「遊びをせんとや 生まれけむ」の遊 ですねー

写真は銀座のジャズバーで。尺八とピアノ・ベース・ストリオの演奏で漢詩「真呉爾羅」を自作自詠しています。

「始まりはベースでゴジラの鳴き声」とだけお願いして。



漢詩創作の楽しみ

既望会 佐竹信一

昔から漢詩が好きだ。高校時代に初めて漢文を習った時、外国語である中国語を返り点と二回読みで日本語にしてみよう先人の工夫に驚いたが、やがて漢詩の雄渾な文体にひかれ、自分好みの詩をよく暗唱した。漢詩ではないが土井晩翠の「星落秋風五丈原」や「万里の長城の歌」もお気に入りだ。大学のころ後到大御所となる石川忠久先生の講義を半年も聴けたのは今となつては大いに自慢できそう。卒業後暫くは時に漢詩の本を開くことはあつても、その後徐々に距離ができていた。

それが高等遊民となつて久しい三年前、「初心者入門講座」のチラシを手にして状況が変わった。全五回の講座で三千円という破格の料金につられて参加してみると、我々十四名(当時)は大勢の先輩方の熱心な指導に乗せられ、やがて同期のサークルを作る羽目になった。実はこれは神漢連の巧みな誘い込みの仕組みだったのだ。始めたはよいが読むのと作るのでは大違い。隔月の例会前は七転八倒の苦しみだ。李白の「我歌えば月徘徊し」のような自由な発想で簡単に作詩する力は想像もできない。でも「だれ漢」で探した好みの句を十五ゲームのパズルよろしく組み合わせる詩に仕上げるのはそれなり達成感があり面白い。人生楽に行こうと思えばいつでも退会できるわけだが、始めたからにはもうしばらくこの苦行を続けてみようか。

白楽天と枕草子と書と

五友詩林会 嘉嶋宏子

白楽天の「日高睡足猶慵起、小閣重衾不怕寒、遺愛寺鐘欹枕聴、香爐峰雪撥簾看」の漢詩との出会いは、何十年前も前、高校一年の授業でした。「香爐峰の雪は」と定子中宮の問いかけに清少納言がすかさず「御簾」をかけたという話の根拠になった漢詩と知る事に。ずーっと心に残っていた漢詩です。後年「公募書展」の初出品の作品に仕上げた事を思い出します。もう一つ、我が国で人口に膾炙している白楽天の長恨歌の最終部分「在天願作比翼鳥、在地願為連理枝、天長地久有時盡、此恨綿綿無盡期」も書作しました。

大学でも「漢詩鑑賞」の授業が有りましたが、遠い昔の話ですっかり忘れています。勿論、作詩するなぞ思いもよらず、只管「唐詩、宋詩」を書作しています。八年前ひょんな事で作詩の初心者講習に誘われ、講習会が終われば辞めるつもりが、何故か今日までに！作詩は身辺の事を題材にしており、含蓄のある「詩」が出来ていません。批評会では多くはガツカリ。たまに「この語句は決まっていますね」と言われると、ホットする私！又講師の方から「楽しみましょう」と励まされたりしています。少しでも赤ペンの減る事を願いつつ毎回道道に取り組んではいるのですが、なんせ詩情が乏しく、いつも詩語集やら、漢和辞典に首を振り振りしながら悪戦苦闘の日々です。「琢磨何日放詩心」ならん事を願いつつ！

漢詩と私

新井治仁

○出会い

六十代前半に仕事から離れ「気ままに旅行、読書」と考えていたある日、地元図書館の書架を漁っていた。ふと目に留まった著者名に「船津富彦」とあり、一瞬で高校時代の漢文の授業風景が甦ってきた。(実は付属高校の自由さで机の下で三島や開高などを読みふけていたのだが…)。本の名は「謝霊運」。南北朝時代の山水詩人で数奇な逸話がある美文家。正直、一読したが咀嚼できぬままに新しい文芸世界を垣間見たのであった。若気の至りで折角の碩学の授業をないがしろにしてきた悔恨もあり、間もなく新聞の神漢連初心者入門講座を見つけ、連盟入会、漢詩の世界に取り込まれるに至ったのである。

○詩游会

連盟第四期生は平成二十二年末、第一回例会で発足。櫻庭先生、住田先生、田原先生の指導の下、十四年間に八十回の例会の外、七冊の詩集発行、九回の吟行会、小田原清閑亭(旧黒田侯爵別邸)での吟詠会など多士済々のメンバーが企画、

交流の場となった。例会後の宴席も愉快で、談論風発、故田原先生に「唐詩と宋詩、どちらがお好きですか」とラフな質問をして、言下に「それは君、宋詩だよ。唐詩の大袈裟な所よりは宋詩の生活感が僕には合うから」とのこと、大いに意を強くしたものだ。その時期の拙作です。

「活與老狗」

老狗と活きる

與狗相和十数年 狗と相和し十数年

情温性順甚哀憐 情は温性は順甚だ哀憐す

朝遊夕歩多生意 朝に遊び夕に歩み生意多し

軀黑霜鬚覺宿縁 軀は黒く霜鬚して宿縁覚ゆ

時移ってそんな詩游会も十人以上いた会員が半減以下、他のサークルと早く合流して、若手会員の加入など新展開を模索し、何とかタスキをつなぐ覚悟です。

○作詩と鑑賞

作詩と鑑賞とは一体のもので、「秀句をものするためには名作を多読鑑賞し自家薬籠中にする」のが秘訣だとされ、事実異論の余地はないと思う。只、趣味の漢詩で、詩作と鑑賞へ重点の置き方は人によって様々であるのが現実だ。新会員の中でもはつきりと「私は名詩の鑑賞を楽しみたい」と表明される人達も多い。今後学生などの新しい息吹を期待するには、人類の文化遺産ともいふべき漢詩世界にどう招待できるか更に工夫が必要

だ。自分も最近は杜牧や李商隱などを系統的に読み込んで、新しい解釈をしてみたいと思うようになった。

特に次の絶唱は、作者の難解な作風から解き放たれた爽快感があり、自分の今の心情にぴったりで大好きだ。

樂遊原

李商隱

五言絶句

向晚意不適

晚に向んとして意適わず

驅車登古原

車を駆って古原に登る

夕陽無限好

夕陽無限に好し

只是近黄昏

只だ是れ黄昏に近し

○漢詩の周辺

漢詩には中国語習得が近道だという意見がある。私は簡体字の中国語を未だ独学中。搜韻や百度百科の検索には役に立っているが、散文と詩文の違い、古典と現代語のギャップなど隔靴搔痒の感もある。むしろしつかり日本語として訓読出来る漢文読解訓練がまず重要だと思う。

次に家庭のサポートだ。ご夫妻会員で家庭で議論できれば理想的です。只、我家はお互い不干渉の原則で家内は専らミステリーを愛読している。「漢詩は人生最後の趣味」とはよく言ったもので、各人各様、自分のペースで自由闊達に、頭脳と体力、持って生まれたセンスを大切に楽しんでいきたいと思っています。

漢詩大会で

神漢連会員活躍

令和六年度『扶桑風韻』漢詩大会

優秀賞

清明展墓

清明展墓

高橋純子

絲絲雨歇鳥聲妍

糸々たる雨歇み 鳥声 妍なり

爛漫山櫻發墓前

爛漫として山桜 墓前に発く

一縷香烟忽飄處

一縷の香烟忽ち飄る處

懷中孫子載花眠

懷中の孫子 花を載せて眠る

二〇二四年は還暦を迎え、孫ができ、節目の年だった。親子四代で過ごす時間が多く、やわらかい空気をたくさん感じた年でもあった。

ご先祖様にご報告を兼ね、孫誕生の二か月後に行ったお墓参りは清明の時節。ふわあとな風が吹いて桜の花びらが舞う。淡いピンクの花びらが一枚、孫の髪に落ちた。

後日、あの花びらの意味は何だったのかを考えた。本当は意味などないのだろう。ただの偶然なのである。けれど、彼女の上に落ち

たことが「命のボタンタッチ」のように感じられた。

今までは課題に追われて詩を作ることが多かった。が、この出来事はどうしても詩に残しておきたいという思いから作り始めた。賞をいただき忘れられない詩となった。

あれから一年がたち、あの時私の腕の中で眠っていた孫は、おぼつかないながらも歩き、桜の花びらを拾い上げ渡してくれるようになった。私は何ができるようになっただろう。毎日を大切に、しっかりと漢詩の勉強をしなくてはいけないと、改めて思う日々である。

秀作

觀清明上河圖

清明上河図を觀る

大森冽子

清明佳節順帆風

清明の佳節 順帆の風

殷賑開封衆庶充

殷賑たる開封 衆庶充つ

高閣虹橋商舖景

高閣 虹橋商舖の景

隔時詳覽畫圖中

時を隔てて詳覽す画図の中

霜降

霜降

小嶋明紀子

風翻客袖碧溪空

風は客袖を翻して碧溪空なり

獨領素秋澄水東

独り素秋を領す澄水の東

寒鳥呼吾回首處

寒鳥吾を呼び 首を回らす處

新霜染葉色逾紅

新霜葉を染めて色逾いよ紅なり

芒種日散策

芒種の日策を散す

仁上恵子

鳴蛙閣閣喚朋喧

鳴蛙 閣閣 朋を喚んで喧し

農叟齊齊種稻繁

農叟 齊々 稻を種うるに繁し

如蓋陰雲流不去

蓋の如き陰雲流れ去らず

梅霖方著野人村

梅霖方に著く野人の村に

入選

霜降

霜降

水城まゆみ

青女飛霜凜凜寒

青女霜を飛ばして凜々として寒し

素娥伴兔影團團

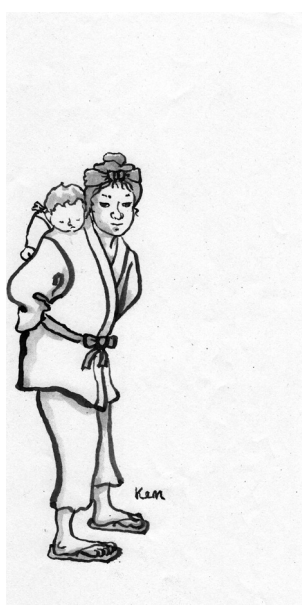
素娥 兎を伴ひて影 団々

衆芳搖落空庭裏

衆芳 搖落す 空庭の裏

地白蕭條楓樹殘

地白く蕭条として 楓樹残す



令和七年の全国漢詩大会の予定

奮って応募しよう！

漢詩応募規定・用紙は、各大会のホームページから入手できます。

●令和七年度全日本漢詩大会徳島大会

十月二十日 表彰式 徳島県徳島市
募集終了

●令和七年度扶桑風韻漢詩大会

詩題「別れ」
八月一日～十月三十一日

●第二十八回全国ふるさと漢詩コンテスト

十一月二十九日 表彰式 多久市
詩題「祭」 応募締切 八月八日

●第十回漱石記念漢詩大会

大会は開催されずHP上で入賞者公表
自由題 募集終了

●第十七回諸橋轍次博士記念漢詩大会

十一月八日・九日
自由題 募集終了

●令和七年度関谷学釈菜献詩募集

五言・七言の絶句、律詩 一人二首まで
「旧関谷学校釈菜に係るもの」
応募料無料 応募締切 九月十五日

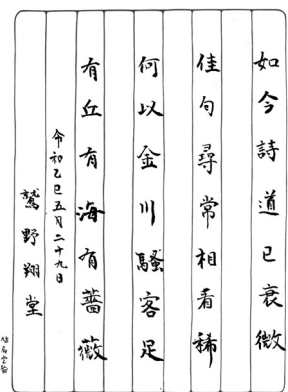


卒業詩の入賞者の皆さんと講師



「寺子屋」で熱心に創作中

入門講座の写真(記事..七面)



懇親会 鷺野先生 玉韻(二面参照)

漢詩鑑賞会一覧

名称	講師	世話人	開催日	会場	概要(主に、2024年度の講義等)
鑑賞会 A	中島龍一、玉井幸久、 香取和之	白石信隆	毎月 第4木	ZOOM	漢詩の周辺、四季の漢詩(春夏秋冬)、屈原と楚辞
鑑賞会 B	水城まゆみ	高田宗治	毎月 第4金	ZOOM	聯珠詩格の鑑賞と詩作(2025年4月からは、 三体詩鑑賞と詩作)
鑑賞会 C	中島龍一、新井治仁、 香取和之、高津有二	新井治仁	毎月 第4火	ZOOM	御定佩文齋詠物詩選の七言絶句の鑑賞
霧笛女子会	古田光子、水城まゆみ、 横溝比呂美、大森冽子	水城まゆみ	偶数月 第1火	かながわ 県民センター	各講師の講義(蕪村詩集と漢詩、柳宗元の 漢詩、女流詩人の漢詩、源氏物語と漢詩)
鑑賞会 D (2025年6月開講)	中島龍一		毎月 第1水	かながわ 労働プラザ	石川忠久監修「漢詩鑑賞事典」を用いて、 漢詩鑑賞を楽しむ 入会3年以内の会員を対象とする

神奈川県漢詩連盟 令和七年の行事予定

カレンダーに予定を記入しましょう

● 超簡単・自詠自書入門講座

第一回 八月十一日(月)午後一時～五時
第二回 八月十七日(日)午後一時～五時
場 所 横浜市社会福祉センター
参加資格は、神漢連会員で作品展未出品の方。

● オンライン吟行会

期 日 八月三十日(土) 午後一時三十分～
開催日が近づいた頃メールアドレス保有者全員に参加可否の問合せをします。

● 漢詩講演会

期 日 十一月六日(木)
時 間 午後二時～四時(開場：午後一時三十分)
場 所 横浜市開港記念会館「講堂」
講演者 明海大学名誉教授 市川桃子先生
演 題 続・「三国志」の英雄 曹操の思い(予定)。
参加申込み 不要 会員以外も参加できます。無料。

● 研修会

期 日 十二月十九日(金) 午後一時～四時
(予備日 十二月二十四日(水)(時間・場所同じ))
場 所 かながわ労働プラザ

編集後記

今号も多彩な内容をお届けすることができました。寄稿いただいた皆様に御礼申し上げます。

鷲野先生の講演は漢詩の解説だけでなく、創作のポイントまでお話しいただきました。狭山ヶ丘高等学校樋口教諭「私の漢詩創作指導」、松田奈月会員「現代中国の漢詩事情」も大変勉強になります。各コンテスト受賞者の紹介は神漢連会員の活躍ぶりが誇らしいです。新井副会長の「漢詩と私」は人柄が滲み出た素敵なお話です。

鷲野先生が講演の中で、古典を学ぶ事の大切さを説いていらっしゃいました。その時、先日テレビで見たストライプバリウスを思い出しました。世界中のヴァイオリン職人がその音色に少しでも近づこうと日夜努力している。しかし三百年前の楽器を超えられない。研究に研究を重ねてもその音色を再現できない。それでも諦めない姿に感動しました。

李白、杜甫を学んでも彼らに近づくどころか影さえ見えません。それでも美しい言葉を求めていきたい。先生の言葉を肝に銘じて古典を勉強していこうと思います。

名器は二億円を超えるそうですが、詩仙、詩聖の名詩は換算できない価値がありますね。
(伊藤邦彦)